

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
一般 教育 科目	人間 と 自然 科学	生命科学	生命現象について生物学を中心とした基本および人間におけるその特徴を学ぶ。また、生物が示す多様性を生む機構の共通性がDNAに記された遺伝情報に基づくこと、ヒトの進化の過程について分子生物学や各種理論から総合的に学ぶ。そして、途切れることなく続いてきた生物の歴史として現在生きているとはどういうことか、現代社会と生命科学との関わりについて学ぶ。
		生体の化学	ヒトの身体は多様な生体分子から構成され、生命現象は生体分子の化学反応により維持されている。物質の組成や構造、生成や分解の反応、他物質との間に起こるさまざまな反応を原子・分子レベルで解明し、更に役立つ物質を新たに創造する化学の視点から、糖質、脂質、タンパク質、人体に関連する化学物質、生態における水分子や金属イオンなど、その性質や化学反応の仕組みなどを学ぶ。
		情報科学	現代社会を生きる人間は、多様な場と状況において情報システムとかわらざるをえない情報社会人である。情報の技術面だけでなく人間のおよび社会的な側面からそのシステムに対し正しくかつ適切な対応の理解が必要である。そこで、現在注目されているAI(Artificial Intelligence)実現の基本となるコンピュータの構造、情報処理プロセスの原理(プログラミングの考え方)、および情報通信技術(インターネット)のしくみなどその基礎を学ぶ。また、情報を活用する前提となる知的財産権、個人情報保護およびプライバシーなど情報にかかわる倫理・法を学ぶ。
		情報リテラシー入門	現代社会においてデジタル媒体を用いた情報を扱わざるを得ない。そのため、本科目では大学生の情報リテラシーの入門として、高等学校の教科「情報」で学ぶデジタルの概念、機器操作(PC、マウス、ワープロ・表計算など汎用ソフト)の方法、Webブラウザ、電子メールなど基本的技能を復習し習得する。
		生命と地球環境	現在、文明活動の影響を含め地球規模の環境破壊が問題(例として、気候の温暖化、放射性物質の汚染、砂漠化の拡大、酸性雨問題、生物多様性の減少など)となっており、時間スケールとグローバルな観点から地球環境を保つシステム、および今後の環境変化について学ぶ。
		医療のための物理学	物理学は医療技術や看護の進歩・発展に大きく貢献しており、物理学の原理や法則がどのように医療の現場に応用されているのかを理解する。
	人間 と 文化	心理学	心理学は生体の精神活動や行動を研究する科学であるが、扱う対象が幅広い。本科目では、心理学がどのような学問であるか、またどのような研究分野がありどのような知見が得られているかについて、心理学を横断的に学ぶ。具体的には、心理学の基本的な考え方や、研究方法、さらに個別の心理学領域について学ぶ。
		文学	文学作品を通して文学作品が生まれた背景とそこに登場する人間の生き方や考えを学び、豊かな感性、理知的な視点が構築されるようできるだけ多彩な文学作品に触れていく。そして、現代を生きる人間として問題意識を高め、人間に必要な幅広い視野と表現力を養い、培うことを目指す。
		生命倫理	現代の科学技術の発達に伴い、生殖医療や移植医療、終末期医療など医療の現場においても様々な倫理的問題が生じている。それらの問題を生命倫理の背景や理論、そして生命倫理が問われる具体的課題を通して学ぶとともに、医療人としての倫理的態度を学ぶ。
		哲学	「人間とは何か」は、古来問われ続け、今も問われている重要な問いである。授業では、人間について自分で考える際に手がかりとなるようないくつかのものの見方を、具体的な材料に即した形で提示し、それらのものの見方に疑問を抱き、批判や訂正を加え、その過程の中で翻って自分のものの見方をとらえなおし、深めていく機会を提供することである。
		発達心理学	家族のありかた、働き方が複雑になってきている現代社会において、人間のありかたも多様になっている。その多様性を理解するための基礎として、乳児期から老年期まで生涯にわたる心の発達の基本について学ぶ。発達理論を通し、発達段階に沿った特徴などの基本的知識を現代社会との関連を踏まえたうえで学ぶ。
		多文化共生論	現代社会は、グローバリゼーションにより民族、国籍、言語、習慣の異なる人々がともに暮らす社会である。様々な価値観を認め、相互理解のもと対等な関係を気づきながら生活するにはどうしたらよいかを学ぶ。とりわけ、外国人受け入れ施策、外国人を取り巻く課題やその支援について学び、多様性を尊重し共に暮らす多文化共生社会について考えを深める。
		教育学入門	教育は人間の成長発達をより望ましい方向にむけるものであり、基礎教育から高等教育のみならず成人教育など生涯を通しておこなわれるものである。教育科学には様々な領域があるが、その中から、教育史や教育社会学などの基礎的教育科学と教育制度論、教育方法論などの実践的教育科学の両面から総合的に学び、生涯を通した教育、学習についての知識の獲得を目指す。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
		健康とスポーツ	生活習慣病予防やフレイル予防など、運動の効果は科学的に実証されており、健康の維持・増進のために運動やスポーツに親しむ成人が増えている。運動やスポーツが体に与える影響を運動生理学の視点から学ぶとともに、実際に運動を通して健康の保持・増進をどのような手段で実現できるかを考え、健康づくりのための基礎知識の習得をめざす。
		人間理解のための文章講読	哲学の重要なテキストを読みとる力と、哲学の歴史に対する理解とを身につける。哲学的な概念と現実生活とを結びつけることができる。
人間と社会		法学入門	法についての基礎的知識と法令の構造や法の解釈、法の考え方や仕組みなどの基本事項、さらに日本国憲法について理解し、法律と看護や医療との関連について学ぶ。
		医療人類学（文化人類学）	文化人類学は、文化を通して人間とは何かを考える学問であり、また異文化にまなざしを向ける学問でもある。本講義では、異なる社会の生活様式や価値観について学び、それらの違いから生じる諸問題を捉え、解決へ導く基礎的な視点・考察力を身につける。
		社会学	社会学とは、個々人と社会の相互的な関係に視点を置き、複雑化する現代社会が抱えるさまざまな社会的問題や現象、また、人間の社会的生活について検討する学問である。本講義では、社会学の基本的な概念と探求方法や、個人、家族、集団、地域、民族などのテーマについて学び、社会学的なものの見方を養う。
		国際関係論	現代の国際社会の枠組みやシステムについて考え、世界に対する基本的理解を深めるため、国際関係の基礎知識とグローバル時代における移民や貧困、宗教といった国際的な課題について学ぶ。
		ジェンダー論	生物学的な視点や歴史の展開、文化論などとの関連の中で、ジェンダーという視点について整理する。そして、性差別、性暴力、労働、家族、教育といった現代社会をめぐる諸問題を、ジェンダーの視点から考察する。
		政治・経済学	本講義では、現在の政治と経済の基礎を学び、諸問題について主体的に検討する。政治に関しては、民主政治の基本原理、日本の政治と地方自治について学ぶ。経済に関しては、経済のしくみ、日本の経済について学ぶ。これらの知識をもとに生活に身近な政治・経済の現状や課題について検討する。
		医療と保健の歴史	この授業では、感染症の流行と対策の歴史を政治・経済・文化などとの関連において取り上げ、医学・医療が社会・国家・個人などとどのような関係にあったのかを学ぶ。そのうえで、医学・医療のみならず、現代社会がどのように形成され、今日の我々がどのような課題に直面しているのかを考える。この授業が対象とする主な時代と地域は、19世紀から21世紀の日本・東アジア・ヨーロッパ地域である。この授業を通じて、過去と現在のつながりを意識しながら、現在の医学・医療を取り巻く環境やその将来のあり方を考える力を修得してほしい。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
	探求の技法	アカデミックスキルⅠ	大学生に求められるアカデミックスキルとは何か、探求するテーマを見つけ、データの使い方や図書館の利用方法などの学習技術を身に付け、目的に沿った情報をもとに適切な形式に則って分かり易い文章を書き、相手に物を伝える能力を養う。この科目は、少人数のグループによるゼミ形式の学習とする。
		アカデミックスキルⅡ	アカデミックスキルⅠでの学習を踏まえ、グループで探求するテーマを見つけ、問題が何かを明らかにする思考力、判断力と、思考し判断したことを適切に表現する力を養い、グループ討議を重ねながら、議論の仕方を学ぶ。また、それを論理的な文章として構成しまとめる力、効果的なプレゼンテーションを行う力を養う。この科目は、少人数のグループによるゼミ形式の学習とする。
		統計学	基本的な統計手法・考え方について、得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、その基礎的内容を具体例を用いて教授する。
	人間と言語	英語Ⅰ	グローバル化が進み、医療現場でも国際共通語となっている英語での対応能力が求められている。そのために、基本的な英語表現を修得し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を組み合わせながら英語でのコミュニケーションの基礎力を身に付ける。
		スペイン語	スペイン語の基本的な文法・語彙を学んだ上で、日常生活に必要なコミュニケーションができるようになるための練習を行っていく。また、簡単な文章の内容理解・自分で文章を作るなどの活動も実践していく。
		韓国語	韓国語は日本語と非常に似ていて、日本人が近づきやすい言葉の一つである。また、「ハングル」で知られている韓国語の文字は1446年に人為的に作られた世界で最も新しく、科学的で合理的な文字だといわれている。発声器官を真似って作った記号のような文字と独特な発音で言葉としての魅力も十分備えている言語である。「話す」ことを目標に授業を進め、辞書一冊あれば韓国を一人でも旅行できるよう基礎作りを行う。
		中国語	中国語は読み、書き、聞く、話すをバランス良く学ぶことが必要である。授業では、基礎的な文法、発音、語彙、表現を学び、日常会話や、辞書を用いて標準的な文体が書かれた新聞記事を読解できるよう教授する。
		英語Ⅱ	基本的な専門用語・英語表現を修得し、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を組み合わせながら、ロールプレイなどを通して、看護ケアに必要なコミュニケーションの基礎力を強化する。
		フランス語	フランス語を読み、書き、話すための基礎的事項を理解し、フランス語の総合的能力を向上させ、フランス語による自己表現ができ、中級フランス語を習得をできる機会を提供する。
		ドイツ語	ドイツ語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の最初歩を学習することで、講座終了後も自主的に学び続けるための基礎を修得する。重要な文法事項を学習しながらドイツ語の構造を理解するだけでなく、特に発音 や聞き取りを繰り返し練習することで、患者さんやその家族との会話にも役立つオーラルコミュニケーションの基礎を身に付ける。折に触れてドイツ社会・文化についても講義することで、日本のそれを相対化できるような視点を養成する。
		英語Ⅲ	看護ケアに必要な専門用語や英語表現を学習し、看護ケアに必要な応用的なコミュニケーション能力を身につける。また、医療・看護に関連する英語の文献などを読み、より専門的な語彙力・読解力読解力を修得する。
		英語Ⅳ	医療・看護に関連する英語の文献など読む力と書く力を強化し、英語で意見を述べ、発表する力を身につける。
		英語Ⅴ	医療・看護の論文を読み、要点や意見をまとめ、英語でスライドを作成し、英語でプレゼンテーションを行う。英語プレゼンテーションに必要な基本的な表現も修得する。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	医学科との共通科目である「医療プロフェッショナリズムⅠおよびⅡ」の受講および、学内外の研修や勉強会などに参加したり、多様なボランティア活動に参加する等の主体的な活動を通して、自らのキャリアを考えていく。他者と協働する力、社会性・看護職者を目指すものとして能動的に学習する力を身に付けていく。
		キャリアデザインⅡ	医学科との共通科目である「医療プロフェッショナリズムⅡおよびⅢ」の受講および、学内外の研修や勉強会などに参加したり、多様なボランティア活動に参加する等の主体的な活動を通して、自らのキャリアを考えていく。他者と協働する力、社会性及び看護職者として生涯にわたって自らを研鑽し続ける力の基盤を身につけていく。
専門基礎科目	人間と健康	形態機能学	人体を構成する細胞・組織・器官、および環器系、消化器系、呼吸器系などの各系統の形態と構造とその機能を学修し、人体のしくみを理解する
		病理学	病理学とは様々な疾患の特徴をもとにその原因を明らかにし、治療に貢献する学問分野である。ここでは、人体を構成している、細胞・組織について理解し、生体に起こる現象や障害・再生・修復過程について学ぶ。
		栄養学	看護の基礎となる栄養・代謝の基礎知識及び健康管理や臨床現場で必要となる栄養治療の基礎を理解する。
		生化学	生化学では、栄養素を化学的な面から学び、生体内における代謝について理解する。
		微生物学	感染症を引き起こす微生物について、細菌とウイルスを中心にその種類、特徴とともに感染を起こす要因とメカニズムを理解する。さらに、微生物の特徴をふまえた感染対策の基本的な考え方を理解する。
		疾病と治療Ⅰ （成人・老人系）	対象者の健康レベルに応じて行われる医療の概要について学習する。救急医療、高齢者医療、リハビリテーション等の概要や、手術療法、化学療法、放射線療法など主要な治療の目的・方法・有害事象等に関する医学的知識について学習する。
		疾病と治療Ⅱ （成人・老人系）	健康障害をもつ対象者の状態を把握し援助を判断するために必要な医学的知識について学ぶ。器官系統別に機能に影響をおよぼす要因を理解し、健康障害が起こるメカニズムについて学ぶ。さらに器官系統別の代表的な疾患を中心として、診断・治療に必要な医学的知識について学習する。
		臨床心理学	精神障害や心理的問題などを抱える人の心の働きや行動の理解と、それに対する援助や回復について学ぶ。また、精神的健康の保持、増進、教育という予防的かかわりについても学ぶ。
		免疫学	微生物や異物、および、有害物質を排除する生体の機能である生体防御機構を学修する。免疫の働きと免疫異常を理解する。
		薬理学	化学物質である薬物が生体におよぼす影響、生体と薬物の相互作用、および、薬物の種類、性質、特徴、作用機序、薬理作用、副作用を学修する。また、対象者に用いる薬物の効果的な投薬の知識と技術、および、安全に用いるための薬物の管理について理解する。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
		疾病と治療Ⅲ （周産期と婦人科系）	妊娠の成り立ちから産褥までの身体的特徴および生理的变化について学習する。代表的なハイリスク妊娠、分娩期の異常、産褥の異常について、要因、検査、診断、治療について学ぶ。および 女性の特有な疾患について要因、検査、診断、治療について学ぶ。
		疾病と治療Ⅳ （こども）	こどもに生じる代表的な健康障害の病態、および、こどもが受ける検査や治療をこどもの機能的な特徴と関連付けて理解する。
		遺伝学	遺伝医学の発展により、個人の体質や病態に合わせたより精密なゲノム医療が実現しつつある。このような中で基礎的な遺伝学的は不可欠となっている。また、ゲノム医療の現場においては、本人ならびに遺伝情報を共有する家系内の人々への倫理的・法的・社会的配慮や心理的フォローも必要であり、これを実践する遺伝カウンセリングについても知識を習得する。
		補完代替療法	補完代替療法とは何か、歴史、種類や方法、補完代替療法の看護への導入、活用について学習する。特に、健康の維持・増進および苦痛の緩和に焦点をあて、補完代替療法に関する知識および技術について学ぶ。
	環境と健康	社会福祉・社会保障	社会福祉・社会保障の基本的な考え方、歴史的変遷、制度の実際、現代の問題点について学習する。
		医療概論	看護学を学び、質の高い看護の実践能力を身につけるためには、あるべき医療の姿を正しく捉えることが必要である。医療におけるAI活用など最近の医療を取り巻く環境は刻々と変化しており、医療の考え方や仕組みも大きく変わりつつある。現在、そして将来の医療はどうあるべきか、どんな課題があるのかについて、最近の医療の動向を踏まえ、データや資料を基に考えてみる。
		公衆衛生学	生まれてから死に至るまでのライフサイクルの中で、疾病を予防し健康保持増進を図るために必要な公衆衛生学・予防医学の知識を学ぶ。
		疫学	人間集団における健康状態を的確に把握し、様々な健康問題の背景因子を探るとともに、その解決に向けた対策の計画や評価につなげることのできる疫学の基礎的な能力を養う。さらに、健康に関する統計について、意義、統計の種類、データの種類、統計における基礎的な指標について理解する。さらにデータを活用し、わが国における健康上の課題について検討する。
		保健統計学	統計解析の基礎ならびに、特定集団の健康に関するデータや統計指標を分析して健康課題を明らかにする方法を理解する。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	看護の基盤	看護学概論	看護とは何か、看護の対象とは、社会における看護の価値や看護の専門性とはどのようなものかについて学生自身が深く考え、自らの看護観を構築する基盤を養う。具体的には、日本と世界の看護の歴史、専門職としての看護の機能や役割、看護を考える上で重要な概念、主要な看護理論の概略、看護援助の範囲、看護の場と対象について、講義やグループディスカッションを通して学ぶ。
		看護倫理Ⅰ	看護倫理の基盤となる看護の価値についての理解を深めるとともに、患者の権利とその擁護、人間の尊厳、看護職の責務と倫理原則など看護を実践する上で必要な倫理に関する基本的な知識を習得する。さらに、倫理的問題に対処するための倫理的意思決定の考え方および方法を学ぶ。授業を通して看護の価値を追求し、倫理的感受性を高め、倫理的思考を身につけることを目指す。
		チーム医療論	チーム医療が生まれた背景や、チーム医療の理念、医療に携わる様々な職種の役割についての基本的な知識を学ぶ。さらに、看護以外の学部 of 学生との多職種連携のシミュレーションを通して、チーム医療の重要性や看護の役割を考える。
		看護理論	代表的な看護理論について学び、これまでの実習等で経験した看護の現象を看護理論を用いて分析する事を通して、 <u>看護理論</u> の理解を深める。
		看護の歴史	看護の歩みをたどることで看護の概念の形成プロセスを理解し、職業的アイデンティティの形成の基礎を築く。授業回ごとに設定した看護の歴史上のテーマに沿って、先人たちの努力と当時の社会背景を知り、看護職としての問題意識を持ち、未来の看護の展望を考察する姿勢を築く。
		看護倫理Ⅱ（事例分析）	倫理的意思決定を行うための枠組みを学び、看護実践等で生じる倫理的問題の解決に向けた介入のあり方を学ぶ。授業は主にグループワークおよび個人ワークで展開し、学生が主体的に議論できる機会を多く提供する。
	看護の対象	看護基礎実習Ⅰ	病院で療養する人の生活とその人が受けている専門職者からの支援を見学することで、対象に関心を持ち、対象を理解するための情報とは何かを学ぶ。また、療養する人の安全・安楽の原理原則に基づいた看護についての理解を深める。
		老年基礎実習	地域で暮らす高齢者の現在の生活や生きがい、楽しみ、ならびに、それらにつながるこれまでの生活や文化・歴史的背景への知的で人間的な関心を持ち、高齢者の思い・考え・感情について理解を深める。
		看護対象論	人間発達学の観点から、対象である人間の理解を深める。ライフサイクルの各段階における心身の特徴、成長発達の特徴と課題を学ぶ。さらに、ライフサイクル各期（子ども、成人期、老年期）および女性のライフサイクル各期の健康課題を理解し、支援のあり方を学習する。さらに、性の多様性（性的マイノリティ）について理解する。
		コミュニケーション論	看護における対人関係の意味や対人関係理論について学ぶとともに、援助関係とは何か、援助関係の構成要素としての重要概念などについて学習し、看護における関係性構築の重要性について理解する。また、関係性の構築に必要な看護援助技術としてのコミュニケーションの理論と技法を学ぶ。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
		地域・在宅看護論Ⅰ	地域で生活する人々を対象にした看護の概念、地域における看護の場の多様性、地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに地域の特性や健康課題を把握するために必要な地域の情報収集とアセスメントについて学ぶ。
		地域・在宅看護論Ⅱ	地域で生活する看護の対象の理解、住み慣れた場所で療養することの意味や意義を理解する。また、地域・在宅で他職種とともに協働して提供する看護の特徴を知る。
		在宅看護基礎実習	生活の場で療養する人々とその家族の暮らしの実際を理解する。地域包括ケアシステムの中で、これらの人々が、安全、安楽、安心して自身の生活をおくることを支える看護の実際、看護と協働する他職種の活動の実際を知り、療養者と家族の暮らしを守る在宅ケアシステムを実践的に理解する。
		精神保健論	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造、人格の発達過程について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。
		地域・在宅看護論Ⅲ	行政、産業、学校における対象の特徴や健康課題を理解し、場の特性に応じた看護の展開方法を学ぶ。
		家族看護論	家族は看護の対象であることを認識し、ケア対象者としての家族を理解する。家族の概念、家族機能、家族に関する諸理論をふまえて、家族看護過程を学習する。その中で、健康障害をもつ人々とその家族に対する支援方法を事例を通して理解する。
	看護の方法	看護技術論Ⅰ	さまざまな状況にある人々の日常生活のニーズを満たすための援助の原則を学ぶ。
		看護技術論Ⅱ	対象者に応じた日常生活の援助の方法について学習する。前期に学習した看護技術論Ⅰの内容と関連させ、日常生活援助に必要な基礎的な知識・技術・態度を習得する。
		看護技術論Ⅲ	対象の身体の状態を診査する手技を学ぶ。また、事例に基づいて「医療面接」「視診」「聴診」「触診」「打診」を行い、得られた情報についてフィジカルアセスメントし、適切な専門用語を用いて表現することを学ぶ。
		在宅看護援助論Ⅰ	療養者の生活を想定し、在宅療養者と家族の身体状態、介護状況のアセスメントを学ぶ。それに基づいて看護ケアの方法を考える。さらに、在宅看護を提供するうえで必要とされる倫理的な態度、接遇を身に着ける。
		看護技術論Ⅳ	診断・治療の場面において、安全・安楽に受療できるための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。
		看護過程とEBN	看護実践のために用いられる看護過程を理解し、事例を通して看護の思考過程を学ぶ。科学的根拠に基づいた看護実践を行うためにEvidence Based Nursing の必要性や一連のプロセスについても学ぶ。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
		成人・老年看護学概論	成人期から老年期にある人の発達課題を踏まえ、成人・老人に特徴的な健康上ならびに生活上の課題、及び、健康レベルに応じた看護実践を行う上で基盤となる概念・理論等について学ぶ。
		こども看護学概論	こどもの主体性や能力を尊重した看護を実践するための基本的な概念や理論を学修する。また、多様な場におけるこどもの生活と発達、および、健康障害のあるこどもと家族の体験を理解し、こどもに必要な最善の看護を考える。
		母性看護学概論	母性看護の概念を理解し、母性看護のあり方について学ぶ。リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、性と生殖の特徴を踏まえた健康支援について学ぶ。さらに、周産期看護に必要な概念、看護の役割を理解し、出産育児期の女性と家族の健康支援や母子保健システムなど育児支援における看護の役割を考える。
		看護基礎実習Ⅱ	医療機関で療養生活を送っている人を対象として、看護実践に必要な情報を分析し、看護上の課題を抽出できる。また、対象に行う看護の意味や根拠を考えて看護援助を原理原則に基づいて実践できる。さらに、対象との相互作用を通して自己洞察ができる。
		成人看護学援助論Ⅰ	慢性的な健康問題をもつ人の行動変容や自己管理の継続に向けた援助、緩和ケアを必要とする人や終末期にある人の全人的理解に基づく援助について学習する。成人期の発達課題や疾患・治療の経過の理解に基づき、身体的・心理的・社会的な看護援助について習得する。
		成人看護学援助論Ⅱ	生命の危機的状況にある人、手術療法により身体侵襲を受ける人とその家族の特徴を踏まえ、生命の維持、苦痛の緩和と回復の促進、生活の再構築に向けた援助について学習する。成人期の発達課題や疾患・治療の経過の理解に基づき、身体的・心理的・社会的な看護援助について習得する。
		老年看護学援助論	様々な健康問題を持ち、様々な健康レベルにある老年期の人々を人生の最終段階に向けて自身の力を発揮しつつ生活する存在ととらえることを学ぶ。その人の強みを活かし、健康状態と「その人にとっての豊かな」生活を支えるための看護援助について学ぶ。
		こども看護学援助論	こどもの発達と健康状態、および、家族や養育者の状況を包括的にとらえた看護を学修する。こどもの状態に適切な、かつ、こどもの主体性と能力を尊重した援助を学び、思考と技術を統合した実践力を身につける。
		母性看護学援助論	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的変化について理解し、より健康な生活に向けた看護を実践するために必要な知識および看護技術を理解する。既存の知識を統合し母子および家族に対する看護実践に活用できる思考過程、援助方法を学習する。さらに、この時期に特有な健康障害を理解し正常からの逸脱に対する援助の方法について学ぶ。
		精神看護学援助論	精神障がいをもちながら生活する人を対象として、エビデンスに基づく看護援助を提供するために必要な知識（疾病の成り立ちや症状、治療などの医学的知識を含む）・技術を学習する。特に、その人のストレングスを活かし、リカバリーを達成する環境を整えるために、看護の対象と治療的援助関係を形成する方法、精神障がいをもちながら生活する人々とその家族を支えるケアシステムについて学ぶ。
		在宅看護援助論Ⅱ	入院と退院、在宅での長期療養、看取り、医療ケアなど、在宅療養者の様々な療養状況の中で、健康問題の特徴と対象の生活のありようを把握、尊重して提供する在宅看護のケアアプローチを、事例への演習で、統合的、実践的に学習する。また、訪問看護の経営管理や在宅看護がかかえる課題と展望を多方面から理解する。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
		成人看護学実習Ⅰ	様々な健康問題をもつ成人期の人（・家族）に対して、個別性を尊重した根拠に基づく看護を実践できる能力を養うことを目的とする。具体的には、慢性的な健康問題を持つ人/緩和ケアの必要な人を受け持ち、援助的関係を形成するとともに、健康問題や健康レベルが、その人の身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、その人にとって最適な健康状態をめざした根拠に基づいた援助を実践し、行った看護について考察する。
		成人看護学実習Ⅱ	周手術期（術前、術中、術後）にある成人期の人（・家族）に対して、個別性を尊重した根拠に基づく看護を実践できる能力を養うことを目的とする。具体的には、周手術期にある人を受け持ち、援助的関係を形成するとともに、手術を受けることが、その人の身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、その人にとって最適な健康状態をめざした根拠に基づいた援助を実践し、行った看護について考察する。
		老年看護学実習	健康上ならびに生活上の支援を要する高齢者を対象とし、高齢者の特徴をふまえた看護実践の計画・実施・評価を通して、老年期にある人々への看護のあり方を理解する。また、それらを通して、適切なアセスメントと看護の方法を修得することや、高齢者とその家族への支援における保健・医療・福祉の多職種連携、ならびに、看護の役割・機能と専門性について理解を深める。
		こども看護学実習	健康障害をもつこどもを対象として、こどもの主体性と能力を尊重した成長発達と生活を支える看護を実践をとおして学ぶ。医療機関、福祉施設、教育機関などの多様な場におけるこどもと家族に対する様々な看護の提供方法や、こどもを支援する多職種の役割を理解し、多職種との協働のありかたを学び看護の機能を学修する。
		母性看護学実習	ライフスタイルの多様性をふまえ、女性のライフサイクルにおける支援の実践に参加し、母性看護の役割を考察する。特に、周産期における母子とその家族を対象として、より健康な生活を目指した看護実践能力を養い、加えて母子と家族に必要な母性看護の役割について考察する。
		精神看護学実習	精神障害をもつ人とその家族を対象として、「ストレングス」や「リカバリー」をふまえ、個別性を尊重した基礎的な看護実践能力を養う。具体的には、精神障害をもつ人とその家族との治療的年所関係を構築し、具体的な支援方法を実践するスキルを学ぶ。また、精神障害をもつ人への、活用可能な社会資源、多職種との協働について理解する。
	グローバルヘルス	国際保健論	国際保健における健康と関連する基本的概念について学ぶ。世界における様々な健康への脅威や健康格差の現状と具体的政策や援助の仕組み、国際機関の役割について学ぶ。
		国際看護活動論	国際社会における看護の対象である人々、地域の健康問題について学び、文化を考慮した看護を提供するための理論と実際について学ぶ。また、在留外国人の保健医療の課題と看護の実践についても学ぶ。加えて、諸外国の看護制度を踏まえて、国際協力活動における看護の役割について考える。
		災害看護論	災害により人や社会にもたらされる種々の影響について理解し、人々の生命・健康・生活を守るために必要な看護の役割と看護支援を理解する。災害サイクル各期の特徴と看護および時期的変化をふまえたケアの必要性和具体的な方法を理解する。災害時の医療救護活動の基本であるCSCATTTについて学ぶ。さらに、平常時からの減災や防災に対する看護活動について学ぶ。
		災害看護援助論	災害発生時の対応について災害看護の視点から災害急性期、中長期の看護について学ぶ。災害急性期の看護では、看護活動に必要な基本的判断、救護技術、チーム連携について習得する。災害中長期の看護では、被災者に起こりやすい健康や生活上の問題について演習を通して理解を深める。
		国際看護フィールドワーク	海外におけるフィールドワークを通して、人々の生活や健康問題、また人々の健康への態度や知識を知る。それらを踏まえて、健康の社会的決定要因について学ぶ。また、人々の健康の回復、保持増進における現地の保健医療システムと保健医療人材の役割をとらえ、看護の普遍性について考察する。

授業科目の概要

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
	看護の統合と発展	看護システム論	看護の対象者となる人々に最も有効で良質な看護を提供するための「しくみ」の内容や方法を学ぶ。医療の質の向上・効率化を考える基礎となる、サービスの特徴、看護ケア提供システム、キャリア発達、チーム医療、医療安全など、理論・知識および方法を学ぶ。
		看護研究法	看護学における研究の意義や役割を認識し、看護理論や看護実践との関係について考える。また、看護研究の倫理と基礎的な知識を習得し、看護専門職に必要な研究的思考を養う。
		包括ケア実習	看護職やその関係職種が活動する多様な保健医療福祉機関の場において、看護職や関係職種の活動や役割、場の特性を学び、看護および看護職の役割や機能への理解を深める。
		看護システムマネジメント論	「看護システム論」の学修内容を基礎として、組織運営に必要なマネジメントの理論、知識および方法を学ぶ。さらに、日本の医療制度の特徴、関連する法制度・政策を踏まえ、看護の対象者への質の高い看護サービスの提供について考える。
		統合実習	3年生までの既習学習・自己課題を踏まえ、科学的根拠に基づき対象をアセスメントし計画的に実施、評価修正しケアマネジメントを学ぶ。また、対象への看護を通し、チーム、部署、部門、組織、および組織間における組織マネジメントについて学ぶ。さらに、対象に応じた医療サービスの提供にあたりチーム医療における多職種連携、およびそのサービスの根拠となる保健医療福祉分野の法・制度の実際を学ぶ。
		卒業論文	一連の研究プロセスを通し、看護現象に関する問題・課題を科学的・系統的に 探求する力、論文を作成し効果的に発表する力を習得し、看護研究に取り組むための基礎的能力を身につける。
		看護技術論Ⅴ	既習の授業・演習・臨地実習で得た知識や技術の統合を図るとともに、卒業後の看護実践の場で必要とされる実践力の基盤づくりを行う。具体的には、毎回の授業で臨床に即した事例を提示し、個別性のある援助・効果的な援助とは何かについてグループで討議したり、シミュレーションを行って学ぶ。さらに、専門看護師・認定看護師などの講演から看護の専門性についての深く考える。
		生涯学習と看護の発展	幅広い分野における看護学実践者、研究者の活動の実際から、専門職として看護の質向上を目指し学び続けることの意義を学ぶ。将来看護職に就く者として視野を広げると共に、生涯にわたる自己研鑽のあり方について考察する。
	パブリック・ヘルス	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護においては、小児から高齢者まで年齢や疾病の有無を問わず、すべての住民を対象とする。そこで母子、成人、高齢、精神、感染症、難病といった対象別に、地域における健康課題や公衆衛生看護活動を学ぶ。
		公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護における個人、家族、集団、地域を対象にした活動の展開方法に関する基本的な知識として、家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、地域診断、健康危機管理について学ぶ。
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	公衆衛生看護における個人、家族、集団、地域を対象にした活動の展開方法に関する基本的な技術として、家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、地域診断の方法を演習を通じて学ぶ。
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	住民の健康向上を目指し、ある地域をモデルとしてアセスメントを行い、保健計画について検討する。また特定のテーマに関する健康教育の企画・発表を行う。さらに地域で展開される事業に関する情報を整理し、対象や地域の特性に応じた保健活動を理解する。
		公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理の目的や、組織内での公衆衛生看護管理業務の位置づけ、またその機能について学ぶ。
		公衆衛生看護学実習	健康課題をもつ対象を生活者としてとらえ、個人、家族、集団、地域を対象とした看護活動の展開方法を実習を通じて学ぶ。